

市民の自主的まちづくり活動支援のあり方とその展開

内藤恒平・倉知秀明・網河功・
齊藤由美子・佐藤康博・関口昌幸

1—はじめに

三百二十八万人の横浜市民のマンパワーは活力にあふれ、自主的な市民活動を多彩に展開している。自治会町内会活動を母体にした地縁的な活動も多いが、共通するテーマにより結び付き(知縁)、そのつながりを日本各地や外国とも広げている例が多いのが横浜の特色といえる。テーマは、例えば歴史、環境、福祉、地域の魅力発見など様々で、地域に住んでいる人のみでなく、働いている人、学んでいる人、関心のある人など多様な市民が活動している。

今や、「まちづくり」は「モノ」をつくるだけの時代ではなく、行政、企業、市民がどのような役割分担のもとにまちづくりにかわるのか、また、まちづくりの合意形成はどのようになされるのかが問われている。こうした状況の下では、対立あるいは形式化した行政と市民の関係を見直し、市民の自主的なまちづくり活動の展開を行政上位置づけ、支援し、市民の活力をまちづくりに生かす市民と行政との新たな関係性を構築することがきわめて重要であると思われる。

そのような趣旨で、横浜市都市計画局都市デザイン室では、平成三年度都市デザインフォーラム地域展開型事業、平成四、五年度の地域まちづくり推進事業によって、そうした自主的なまちづくり活動への支援をはじめた。都市デザイン室が担当というところ、「まちづくり活動」の中でも、「ハード」な「魅力づくり」が主体と想定されがちだが、この支援事業は多様なテーマを通じて、地域の魅力あるまちづくりを実践している「ソフト」な活動にも助成を行った。

本稿では、平成三、四年度の支援活動の概要を紹介し、反省点を踏まえ、新たな展開に向けての考察を行った。活動事例は、行政の呼びかけがきっかけで始まった市民の自主的なまちづくり活動の二ケースを取り上げているのだが、市民がすでに自主的に活動を展開していたまちづくり活動については、平成五年十一月二十一日に開催する「よこはま市民まちづくりフォーラム」で発表されることになっている。

2—都市デザインフォーラム地域展開型事業

都市デザインフォーラムとは、平成三年五月横浜ビジネスパークでの展示「芸術が都市を開く」展を皮切りに、翌三月の国際会議までの一年間に展示会、セミナー、コンペなどを実施した一連の事業である。

国際会議でもキーワードとなった「官民のパートナーシップ」。この「民」の部分、すなわち市民がまちづくりに関わっている部分にスポットを当て、各地域での活動を支援したのが「地域展開型事業」と呼んでいたものである。具体的には表1の通りである。地域展開型事業の支援の対象となったグループは会の歴史や構成メンバーなどにより、活動タイプが特徴づけられる。

市民活動始動期グループのひとつに、「女性の目で見えた瀬谷区のまちづくり」があげられよう。これは、瀬谷区役所が公募した市内在任のメンバーでスタート。最初はまちづくりに関する学習が中心であったものが、最後にはシンポジウムを開催し、まちづくりに関する提言をまとめ、活動記録としての白

- 1—はじめに
- 2—都市デザインフォーラム地域展開型事業
- 3—地域まちづくり推進事業
- 4—市民まちづくりフォーラムへ向けての活動と今後の展開

表一 地域展開型事業

事業名	実施時期	内容
「芸術が都市をひろく」展	平成3年5月25日～6月16日	保土ヶ谷区の横浜ビジネスパークにおいてフランスの芸術と都市計画に関する展示会とシンポジウム「都市空間と芸術」を開催
保土ヶ谷宿390周年展 「東海道宿場交流」シンポジウム	平成3年5月25日～6月16日	保土ヶ谷の歴史、宿場文化を照会するパネル展とその歴史を生かした個性あるまちづくりについて語るシンポジウムを開催
鶴見川ネットワーキングフェスティバル'91	平成3年5月～平成4年3月	鶴見川を軸として、流域の市民団体と行政機関が各種イベント等を通じネットワークを広げ、流域市民会議、子供会議等を開催し、水辺と街が一体となったまちづくりを考える
女性の目で見えた瀬谷区のまちづくり	平成3年5月～12月	生活者として日常的に地域で大きな役割を果たしている女性が街の点検活動やシンポジウム等を通じ、魅力ある瀬谷区のまちづくりを考える
横浜のまちづくりセミナー	平成3年11月8日	海外企業の進出が活発な港北ニュータウンで国際的視点での新しいまちづくりを考えるセミナーを開催
まいおかの里フォーラム	平成3年11月～平成4年2月	戸塚区の舞岡地区でオリエンテーリングとシンポジウムを通じ、都市に残された貴重な資源である緑地と農地の活用を考える
南区のまちづくりワークショップ	平成4年1月～2月	南区庁舎周辺で行われてきた市民参加型のまちづくりの実績を踏まえ、新たな視点を加え、行政と専門家、住民の情報交換・流通・実践を目的としたワークショップをおこなう

書まで作り上げた。自ら「ごく普通の主婦」で「行政に対しては要望や不満しか言わなかった」と一年前を振り返る住民が、「まちづくりは自分達の手で」と考えるようになった。メンバーは、平成四年度からは生涯教育のグループとして活動したり、区の魅力づくり事業に協力して、瀬谷区の魅力を市民が見つけ出して地図をつくるなどの活動を行っている。

また、拡大期のグループとしては、保土ヶ谷宿三百九十年展・東海道宿場交流シンポジウムを実施した「保土ヶ谷宿四〇〇倶楽部」、鶴見川ネットワーキングフェスティバル'91を実施した「鶴見川流域ネットワーキング」、まいおかの里フォーラムを実施した「まいおか水と緑の会」がある。これらのグループは活動が軌道に乗り、地元の他の団体や同じテーマで活動している団体とネットワークすることを重視している。三グループともシンポジウムなどを通じて継続的に他都市のグループと交流を続けており、行政をまちづくりのパートナーとして考え、中には、まちづくりの主役は行政ではなく市民・企業であり、「行政参加のまちづくりを」という元氣なグループまでいる。

一年間、地域展開型事業を担当

して、よく聞いた言葉は、「楽しくなきゃ仲間がふえるよ」「自分達に何ができるか考えよう」だった。

地域展開型事業のまとめとして、都市デザインフォーラム国際会議とあわせてパシフィコ横浜で三月十七日に市民フォーラムを開催したが、主催者の心配をよそに多くの仲間が集い、予定時間をオーバーしても熱心に意見交換が行われた。パシフィコ横浜から野毛に会場を移して夜遅くまで語り合った人達もいたと聞いている。

3 地域まちづくり推進事業

① 地域まちづくり推進事業の展開

都市デザインフォーラム地域展開型事業の成果をもとに、まちの環境を自らの知恵と手足を使って、より良い方向にしていこうという意識と行動が市民の中で着実に育ってきている。これを受けて、平成四年度から試行事業として市民の自主的なまちづくり活動を支援する「地域まちづくり推進事業」がスタートした。

市民の自主的な魅力あるまちづくり活動を支援するため、各区役所の推薦をもとに①まちづくり基礎活動（「自分たちのまちを知ろう調べよう」、助成限度額五十万円）が五事業②まちづくり実践活動（「みんなでまちづくりしよう」、助成限度額二百万円）が四事業、計八区九事業を選定し活動費助成をした。始動期のは五事例、拡大期のが四事例である（表1-2参照）。今回はそのうちの二事例についての考察と全体についてのまと

まず歩いてみよう



めを述べてみたい。

② 水と緑のまちづくり活動—緑区探検ウォーキング

緑区は郊外区としての二つの特色をもっている。一つは、都心部と比較してまだ多くの緑が残されていることである。もう一つは、生活区域が旧来からある既成市街地と、開発によって新しくできた新興住宅地とに大きく分けられることである。この特色は、住民意識にも現れており、「旧住民」と「新住民」などと区別され、特に新住民は横浜都民などと呼ばれて地域活動への関心の低さが指摘されている。

緑区ではこの残された緑を生かしつつ、新旧区民の交流を深め、地域に対する「ふるさと意識」を高揚することが、地域活性化への第一歩であると考えた。そこで、平成二年度に区自主事業として、区内で活動する自然保護団体・文化グループなどに呼びかけて「水と緑の街づくり懇談会」を開催した。当初、懇談会は行政の主導で進められたが、いよいよ区事業に対する協力を各団体に依頼する段になって猛反発を受けてしまった。明確な目的意識をもって活動している団体にとっては、既定のイベントへの一方的な協力を要請する区の姿勢が受け入れがたかったのである。このため、区は企画を白紙にもどし、話し合いを通じて事業内容を検討することに方針を転換した。結果的にはこの方針転換が以後の発展をもたらしたものと考えられる。

この「懇談会」から、地域まちづくりを実践する団体として「緑区探検ウォーキング実

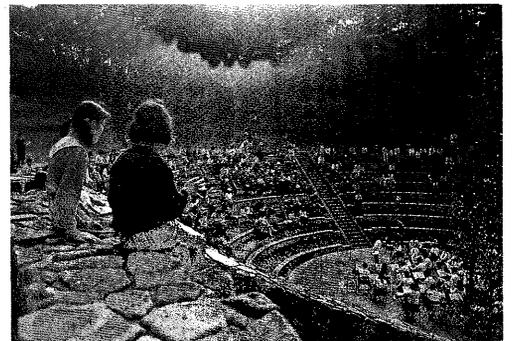
表一 平成4年度地域まちづくり推進事業で助成をした活動一覧

事業名(区) 団体名	活動内容	
緑区水と緑のまちづくり活動(緑区) 緑区探検ウォーキング実行委員会	区内の魅力的な資源を捜しだし、その魅力を生かしたイベント等を開催し、広く区民に呼び掛け、まちづくりの意識を高める活動。8/28川風フェスタINKAMOI、10/4きこ探しウォーキング、10/17四季の森公園秋空コンサート、12/1鴨池公園竹きり物語、3/28川和わいわいシンポ、3月に活動成果をまとめた新聞作成	拡大期の活動
緑園都市街づくりワークショップ(泉区) 緑園都市コミュニティ協会(RCA)	緑園都市の魅力ある街づくりとコミュニティリーダーの育成を目的に、調査、イベントを開催。1/23「地域の環境問題を考える」ワークショップ、3/13「泉田園文化都市と緑園都市の明日を語る」シンポジウム、1/30、2/12、3/5団地見学	活動
上大岡交流福祉と文化のまちづくりフォーラム(港南区) 上大岡交流福祉と文化のまちづくりフォーラム実行委員会	あらゆる年齢層の人が、上大岡に住み続けられる総合的なまちづくりを進めるために、上大岡地域を基礎とする市民グループが提携して、調査及び世界と結んだ交流学习・文化・福祉の実験イベントを実施。12~3月アンケート調査、討論、12/13フォーラム・コンサート	活動
新横浜パフォーマンス街づくりフォーラム(港北区) CIB(新横浜CITY IMAGE BUREAU) 港南台まちづくりセミナー(港南台) 横浜生涯学習まちづくりボランティア協会	新横浜パフォーマンスの一環として、新横浜の魅力を高めるためのフォーラムを開催。企業町内会の性格を生かした企業文化祭を機会に街づくりに取り組む。2/16岩崎学園学生ホールにて開催。「アメニティン新横浜：新横浜のアフター5を考える」地域生活者自らが誇れるまちづくりを実現するために、まちづくりセミナーの開催、マップの作成を実施。3/2「マロニエと都市」3/9「子どもとまちづくり」3/14「魅力あるまちづくり」3/28「むかしの道といまの道」	活動
鶴見川とまちの魅力発見調査(鶴見区) 鶴見川とまちづくり研究会	鶴見川下流部の魅力づくりと、川を中心としたまちづくりに関する調査を実施。川への意識を高めるため、魅力発見調査や公園などと連携した水辺活用を考える中で地域の公益空間の支え方を探る。勉強会、アンケート、事例見学等	始動期の活動
歴史と史跡のまちづくりシンポジウム(旭区) アメニティネットワーク	区内の歴史的資源を広く区民に伝え、これらを生かしたまちづくりについて行政と市民がともに考える。12~1月現地調査、1~2月小冊子「旭区魅力探見」3/28区民交流会議	活動
金沢の海を生かした街づくり(金沢区) 金沢の海を生かしたまちづくり区民実行委員会	「海」をキーコンセプトにした地域の再発見と住民主体による街づくりの動きをつくるため、ワークショップ、シンポジウム、海を使ったイベントを実施。1/15ガリバー地図づくり、2/7ウォーキング、3/14野鳥ビーチ500、3/29シンポジウム	活動
街づくりワークショップ「ちょっとのぞいて見てごらん西区」(西区) 街づくりワークショップ「ちょっとのぞいて見てごらん西区」実行委員会	ワークショップを通して、西区の街づくりや地域環境に対する意識を高めることが目的。テーマは「音風景」。11/21現地調査、12/19目隠し歩行、2~3月音風景地図の作成。	活動

まいおか水と緑の会の活動



四季の森公園秋空コンサート



行委員会」が誕生した。これは、もともと区側で企画していたイベントが魅力ある散策路の指定であったことから「ウォーキング」という名称がつけられたものであった。区自主事業としては二カ年度にわたり、市民の自由な参加を前提として身近な川とふれあう「いかだ遊び」・「川辺のコンサート」、身近な自然の恵みを体験する「きのこ探し」、楽しく公園管理を行う「竹の間伐」等を行った。

これらのイベントは、もともと各団体が独自に実施してきたものもあれば、実行委員会として新しく企画されたものもあった。特に、新しく企画された「川辺のコンサート」は、各団体が役割分担して自主的に運営したはじめてのイベントであり、区が自主事業としての支援を打ち切ったあとでも自主的にこの活動を存続させていく契機となったイベントであった。そして平成四年度には地域まちづくり推進事業の最初の補助事業として、この「川辺のコンサート」の企画を中心に、緑区探検ウォーキング実行委員会を発展させた新しい実行委員会が設立され、活動を行った。また、平成五年度も各団体の活動を継続、発展させた事業展開が行われている。

本事業の運営にあたっての問題は、まず資金であった。区の自主事業として区が予算を担っていた時期でも交通費や事務連絡費などで市民グループが負担した額は相当な額であった。また、会場の確保や備品の借用なども行政の協力が得られない場合は、民間に有償で頼らざるを得なかった。市民による自主的な地域まちづくりの意識を高めるには、規模や開催回数等を増やして一人でも多くの参加を

得ることが必要であり、地域まちづくり活動に関わる市民と行政との役割を明確にし、費用をできる限り節約することが大切である。

イベントの実施にあたってもう一つ問題だったのが広報であった。口コミや市民利用施設へのチラシ配布が中心であったが、イベント参加者からのアンケートによると、「広報よこはま」への掲載が最も効果的であった。しかし、これは締め切りやスペースの制約から掲載できない場合も多かった。民間広報メディアの利用は高コストで、とても市民の自主運営で負えるものではなく、こういう所にも行政が持つ公共広報メディアの協力が必要であると感じた。いずれの問題点も事業に関わった人達の積極的な行動力でカバーしてきたが、これからの地域まちづくりの発展を考えるには、市民と行政が協働するのを支える柔軟な組織体制を確立して行くことが必要である。

④ 金沢の海を生かしたまちづくり

—新金沢発掘隊SKOP—

新金沢発掘隊SKOPの活動は、平成三年度の金沢区自主研修「海を生かした街づくり」に端を発している。職員研修の一環として行ったワークショップやシンポジウムが好評を博したことがきっかけで、自主研修を企画したメンバーが中心になり、同じテーマで平成四年度からは区民と共に、金沢区の様々な魅力を掘り起こし、それを街づくりに結びつけて行くという趣旨で始めた地域展開型の事業である。区政推進課や市民課のみならず、戸籍課や福祉課、課税課など区の様々な部署から集まった有志のプロジェクトが支えている

ものである。

私たちSKOPが、平成四年度の活動を始めるにあたって、真っ先に掲げた課題は、過去のしがらみの無いプロジェクト型組織の優位性をフルに発揮して、区役所のおなじみさん(連合町内会長や各種団体役員)以外の区民、組織を背負っていなくても、金沢の街に對して、思いや技を持った個人を「人材」として発掘し、彼らを中心に行政と住民の共同作業の場をつくりだすことであった。

そのため、別表の通り、昨年度の活動の前半期には「金沢の街」を「見ること」「識ること」をテーマに、講演会や座談会、見学会、タウントレイル、ワークショップ等、ありとあらゆるタイプの催しを企画し、区民に参加を呼び掛けてみた。特に、「タウントレイル」や「ワークショップ」など横文字の住民参加の手法を試して見たのも、とりあえず、日常業務の中では、決して出会うことの無い、得体的に知らないブラックボックスとしての金沢区民二十万人に、いろいろな角度からボールを投げてみたからだ。事実これらの活動を通じて、一芸を持った様々な金沢区民と知り合うことができた。金沢に何代も住み続けている土地の生き字引のような古老や現役の漁師さん、また団地でユニークな地域文化活動が続いている主婦や、金沢の海に潜り続けるダイバーや金沢野鳥クラブの会員、金沢文庫の学芸員等々数え挙げたらきりが無い。隊の活動の方向性がおぼろげながら見えてきた後半期には、前半期の活動を統合化し、より実践的な意味合いを持つ街の魅力興しイベントを企画した。平成五年一月〜三月にか

みんなでウォーキング—SKOP隊



表-3 金沢の海を生かした街づくりの活動内容

テーマ	月日	内容
1 歴史班 (金沢の海の歴史を考える)	10月4日	講演「鎌倉時代の金沢の海」
	10月10日	講演「金沢八景をめぐる金沢の海」
	10月24日	講演「近代にかけての金沢の海」
	11月1日	座談会「区民にとっての金沢の海」
2 環境班 (金沢の海と街を考える)	11月6日	講演「金沢区の環境特性」
	11月7日	講演と漁港見学「金沢区の漁業の歴史と現状」
	11月28日	バードウォッチング・ガイド「野鳥・平潟の野鳥観察」
	12月6日	講演「平潟湾周辺の自然環境一人と水」
3 子供班 (子供たちをめぐる街づくり ワークショップ)	9月19日	子供の居場所・遊び場予想マップづくり
	10月3日	子供を探してまちを歩く
	10月31日	これまでの活動報告と今後の企画案づくり
	11月21日	富岡八幡公園こどもログハウス探検ワークショップ
	12月18日	ミニ・シンポジウム
ガリバー地図づくり	1月15日	生活者の視点での情報、メッセージの書き込み
	1月18日	〃
	1月22日 ↓ 3月7日	〃
ガリバーさんの足跡探し	2月7日	4つのモデルコースを歩く
		①朝比奈切通・熊野神社方面コース
		②富岡・並木(梅の名所)方面コース
		③称名寺・柴町方面コース
野鳥BEACH500イベント (他の市民団体と共催で実施)	3月14日	①野鳥海浜の清掃
		②地元で取れる魚介類の料理
		③塩づくりと塩の話
シンポジウム (新金沢発掘隊SKOP 今年度最後のつどい)	3月29日	①「何だったんだ?新金沢発掘隊」
		②「金沢学ことはじめ」

けて実施した「金沢ガリバー地図イベント」と「野鳥BEACH500」がそれである。ガリバー地図(金沢区の千五百分の一の住宅地図をつなぎあわせた5m×5mの巨大地図)の上に乗り、地図上の思い思いの場所に金沢の街に関するいろいろな情報やメッセージを書き込んでくれた区民は一週間のイベント期間中に二百人を越え、また区内の市民団体と共に横浜に唯一残された自然海岸を守ろうと

呼び掛けた「野鳥BEACH500」には、全く組織的動員をかけずに、これまた二百人近い区民が自発的に海岸清掃に馳せ参じてくれた。これらのイベントは、平成五年度のSKOPの活動である「リレーガリバー地図」や「地域ネットワーク型街歩きイベント」によって引き継がれている。但し、これまでの活動によって、住民と行政の「共同作業の場」が確立できたかと思わ

れると首をひねらざるを得ない。SKOPの活動を始めて、随分長い間、区民はあくまでも、「お客さん」や「先生」であり、企画運営は全て区の職員が担っていた。スタッフとして同じ高さのテーブルで議論できるようになったのはつい最近のことである。私たち新金沢発掘隊SKOPにとって、理想への道程はまだまだ遠いが、「継続は力なり」を信じて市民とともに活動をして行きたい。

④ 四年度地域まちづくり推進事業を振り返って

⑦ 市民との活動を通して

事業の一年目を終え、次年度以降の支援事業のあり方を検討するため、市民および関係した区の職員に対してアンケート、ヒアリングを実施した。

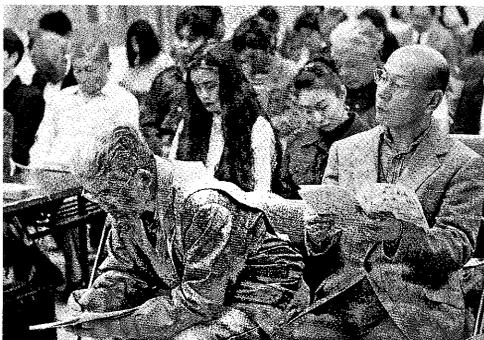
このアンケートには次のような背景があった。①地域まちづくり推進事業は試行であること。②支援事業対策は「魅力ある地域のまちづくり」に寄与する活動であり、かなり広範囲で多様な活動があること。③支援を受けた多くの人から意識の変化に関する意見が出ていること。

この章では、前述の二つの活動も含め、九つの活動の関係者のアンケート結果から、支援(活動補助)事業に対する考察をしてみた。

⑧ 市民は何を感じたか

アンケートの内容は、主に①支援を受けたことによる組織・意識の変化②今後の展開③支援(助成)の内容の三つの項目に分類できる。

港南台まちづくりセミナー



結論としては、今回の支援事業はおおむね好評であり、市民はいろいろな意味で行政に対し期待をしていると言える。

支援の直接的な効果として、「活動を活性化させるきっかけになった」、「市役所から認知され活動がやりやすくなった」などの意見が目立った。行政に対する意識は、「苦情をいうのではなく、一緒にまちづくりをする相手として認識できた」という意見に代表されるように、支援の結果は良い方向に向いているものの、日頃の市役所の評価は低いようである。言いかえると、一般的に市役所に対する信用はあるが、個人的にはあまり良いイメージを持っていなかったということである。

一方、会の活動に目を向けると、「活性化した」、「他の市民グループとの交流を広げたい」、「町内会・自治会とも連携していきたい」といった積極的な意見が多数あった。今回の支援事業は、活動の発展へのきっかけづくりとして効果があつたようで、活動の今後の進展を見守っていききたい。今後の方向として「まちづくりへの提言をしていく」、「まちづくり協定をつくっていく」など、まちづくりへのハード面への展開もでてきている。

支援事業に関しては、大きく分けて「助成金額」、「支援事業期間」、「行政の協力体制」について意見が出された。

助成金額については、「多すぎる」、「もっとほしい」など両面の意見が出された。しかし、内容を分析すると、大きなイベントの実施や印刷物の作成にお金がかかっており、この部分を分けて助成する方法も考えら

れる。市民グループの申請を受けて金額を決定しているのに「多すぎる」という意見が出たのは、助成を受けるのが初めてであり、資金があるのだからと大きな目標を掲げ、これにプレッシャーを感じたからのようだ。また、今回の助成の対象としなかった飲食代、備品の購入代等も活動の円滑・継続化のために助成してほしいという意見が多かった。

支援期間については、結成後間もない活動では二〜三年間の継続支援を、組織としてしっかりしている活動は単年度の支援を希望している傾向が出ている。また、助成金の繰り越しを希望する意見も多い。これは市民活動と市役所の事業年度のとり方の違いや一年以上を一つの活動期間としていることなどが挙げられる。現状では、市役所の事業期間にいう部分だけしか助成できないが、「支援」の意味を考えるとさらに柔軟な運用が望ましいだろう。

行政の協力体制に関する意見では、市民はまちづくりのパートナーとして区役所をもっと頼りにしているが、総合的なまちづくりについて区役所の一つの窓口では受けきれないことに對する戸惑いの声が聞かれた。一方、会場の手配、資料の提供、活動への参加・アドバイスなどが助成金以外の支援として評判が良かった。

④区の職員は何を感じたか
区役所の関係職員へも似た内容でアンケートを実施した。支援事業の評価や金額、期間では市民グループと同様の回答がでている。また、今回の支援事業をとおして区の中でも戸惑いがあったようだ。主な意見を挙げる

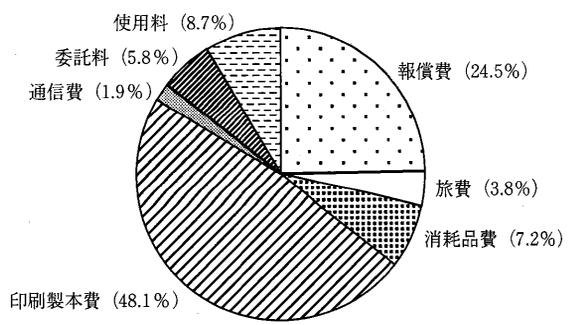
と、①市民のまちづくり活動に對して将来性を期待する一方、行政の支援なしにその自主活動が継続できるかを危惧する声や②活動が先鋭的に発展して行くこと町内会、自治会との軋轢が生じるのではないかと、③今の区の体制では、多様なニーズをもつ市民活動に對応しきれないなどである。特殊なケースであるが、前述の金沢区のSKOPは、所属を越えた職員の間自由参加によるプロジェクトに発展し、今後の支援のあり方や区役所の機能を考える上での貴重な試みとして評価できる。

市民と行政の職員が、まちづくりをテーマに協働することによって、信頼感が生まれふだんの言葉で、苦情・陳情型でなく提案型で話し合えたということではなからうか。このようなまちづくり活動を続けて行くことによつて市民、企業、行政の「パートナーシップ型社会」の到来は近くなるのではないかと。

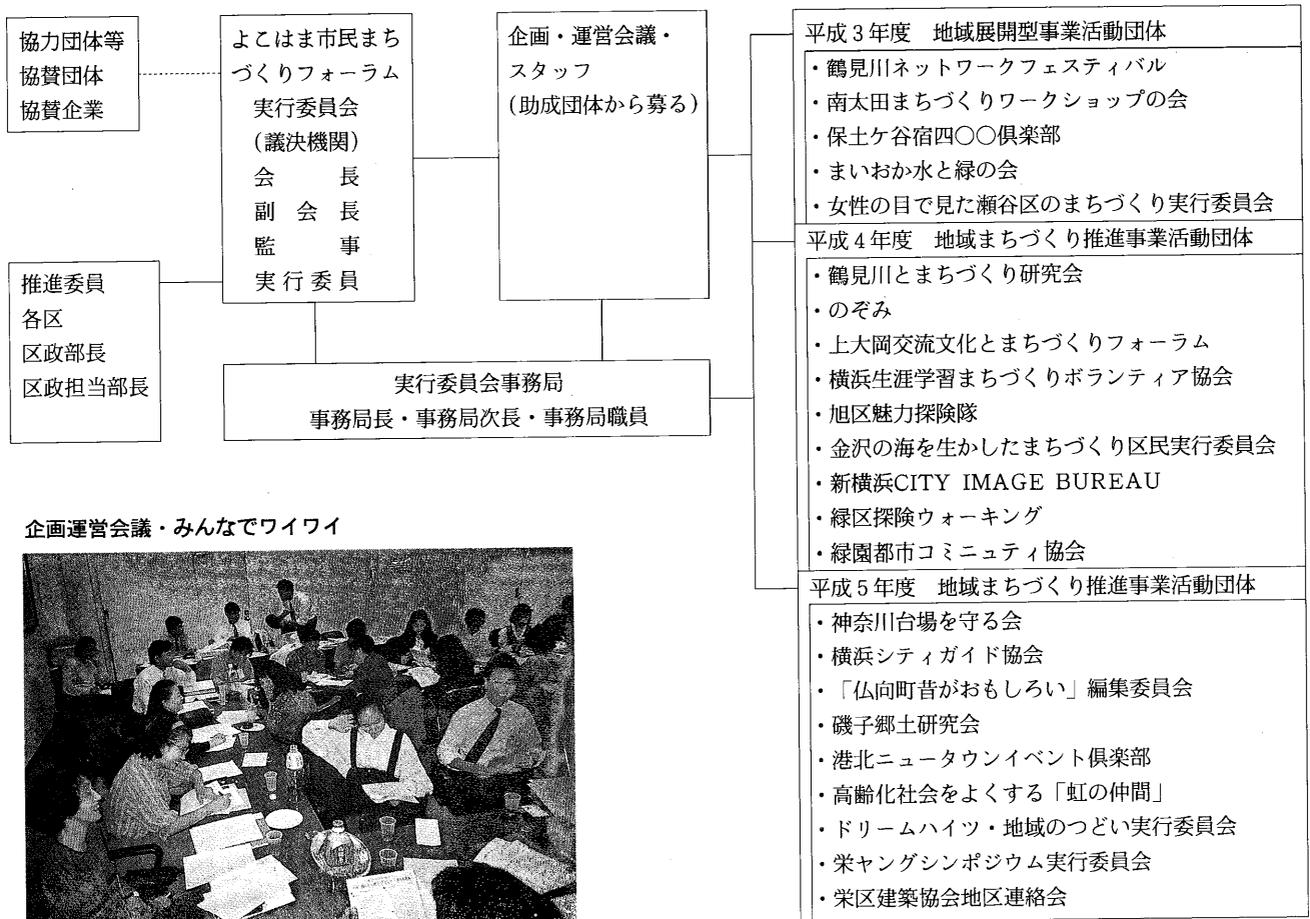
4 よこはま市民まちづくりフォーラムに向けての活動と今後の展開

平成三年度のヨコハマ都市デザインフォーラム地域展開型事業と四年度・五年度（新たに八区九事業に支援している）に実施している「地域まちづくり推進事業」の活動成果発表と今後の市民の自主的なまちづくりを考える機会として、今年の十一月二十一日（日）に「よこはま市民まちづくりフォーラム」を開催する。内容は、市民まちづくり活動報告、まちづくりワイワイ会議、市民まちづくり活動展示（ポスターセッション）等である。これらの企画運営については、市民の自主

図一 地域まちづくり推進事業助成費用使用の内訳（全体）



図一 2 よこはま市民まちづくりフォーラム実行委員会組織図



企画運営会議・みんなでワイワイ



行政研究・市民の自主的まちづくり活動支援のあり方とその展開

的な参加による「企画運営会議」が実行委員会とともに設けられ(図参照)、市民がつくりあげるフォーラムを目標としている。企画運営会議は、これまでの助成活動グループから自主的な参加者を募り、毎回五十人程度の参加者により、自分達のグループの活動紹介から、活動にあたっての苦勞話、まちづくりの貴重な情報を提供しつつ、フォーラムの企画運営に関することを楽しく熱心に話し合っている。

話し合いの方法も、参加者全員の意見が盛り込まれるよう十人程度のグループに分かれたワークショップ形式で、ブレインストーミングとKJ法により各グループの意見をまとめ、グループの代表がそれを発表する、という形式をとったり、短い時間(いつも時間が足りない)の中で、参加者相互の交流や意識の共有が図られてきている。

このフォーラムに対し、それぞれがどのような考え方で参加するのか、参加者全員の共通した意見として、「このフォーラムをひとつのきっかけとして、参加者相互のゆるやかなネットワークを築き、将来へつながる交流の輪を広げていこう。」ということ、そして「このフォーラムは横浜における市民まちづくりのあり方をあらためて見つめ直し、みんなで楽しく考える場としていこう」ということだ。

また、どのようなフォーラムにしたいかということについて、これまでの議論をまとめると次の三つに集約できそうだ。

① 現実を見据えたフォーラムに
フォーラムだからといって背伸びしたりせ

ずに、普段の活動を表現することからはじめ、地に足のついた理想（将来のビジョン）につなげる論議を行っていきたい。

②参加型のフォーラムに

来場者がその場で参加できる形式を取り入れ、会場が一体となって賑やかで活気のあるものにした。

③情報発信のフォーラムに

自分達のグループの活動発表を通じて、市民まちづくりの現状やノウハウ、将来への提案を広くアピールしていきたい。このほか、多くの提案や楽しいアイデアが豊富に提案され、実施に向けた活動へと動きだしている。

本フォーラムは、市民まちづくりの将来を

考える大切な節目であり、単なるお祭り騒ぎにはしたくないとの声が大い。また、フォーラム当日だけでなく、企画運営会議や当日の各グループの活動の連携を開催後も継続、拡大させて行きたい。

横浜市内各地において、市民の自主的なまちづくり活動が徐々に地域に根つきはじめており、今後ともまちづくりについての市民や企業の理解を深め、市民参加のまちづくりを推進するため、市民自らまちづくりへ取り組む基盤をつくり続ける必要がある。そして、それらの活動相互の交流と発展にあたっては、行政、市民、企業（法人市民）のそれぞれが、まちづくり活動における「ひと」「もの」「か

ね」「情報」の仕組みについて、ともに力を合わせ、考えて行かねばならない時代にきていると言えよう。

「よこはま市民まちづくりフォーラム」をきっかけとして、真の市民まちづくりの実現へ向かう動きが展開されることを願っている。

△内藤 〓 都市計画局都市デザイン室課長補佐
市民まちづくり推進担当係長／倉知 〓 同室／
綱河 〓 同室／斎藤 〓 緑区政推進課調整係長
／佐藤 〓 同係／関口 〓 金沢区政推進課調整係